

小松善雄教授の略歴および業績

1943年 1月25日生

学 歴

- 1961年 4月 中央大学経済学部 入学
 1965年 3月 中央大学経済学部 卒業
 1965年 4月 中央大学大学院商学研究科修士課程 入学
 1968年 3月 中央大学大学院商学研究科修士課程 修了
 1974年 4月 立教大学大学院経済学研究科博士課程 入学
 1977年 3月 立教大学大学院経済学研究科博士課程 単位取得満期退学
 1985年 3月 経済学博士（立教大学乙号78号）の学位授与

職 歴

- 1969年 1月～1973年 9月 労働旬報社入社，雑誌『賃金と社会保障』編集長
 1978年 4月～1981年 3月 立教大学経済学部助手
 1979年 4月～1981年 3月 國學院大學経済学部非常勤講師
 1981年 4月～1989年 3月 財団法人国民経済研究協会専任研究委員
 1983年 4月～1984年 3月 法政大学通信教育部非常勤講師
 1984年 4月～1989年 3月 立教大学経済学部非常勤講師
 1985年 4月～1986年 3月 東洋大学経済学部二部非常勤講師
 1985年 9月～1986年 3月 日本大学商学部非常勤講師
 1986年 4月～1989年 3月 学習院大学経済学部非常勤講師
 1988年 4月～1989年 3月 横浜国立大学教育学部非常勤講師
 1989年 4月～1992年 3月 東京農業大学生物産業学部助教授
 1992年 4月～2000年 3月 東京農業大学生物産業学部教授
 1993年 4月～1995年 3月 東京農業大学生物産業学部産業経営学科長
 1997年 4月～1999年 3月 東京農業大学全学審議会委員
 1999年 4月～2000年 3月 東京農業大学生物産業学部産業経営学科長
 2000年 4月～2008年 3月 立教大学経済学部教授

2008年4月

東京農業大学生物産業学部教授

学会ならびに社会における活動

所属学会

- 1975年10月 経済理論学会会員 (現在に至る。平成16年4月より現在まで幹事)
1985年2月 社会政策学会会員 (現在に至る)
1995年9月 日本協同組合学会会員 (現在に至る)
1995年10月 日本流通学会会員 (平成9年3月まで)

社会における活動

- 1989年4月 中小企業家同友会全国協議会 企業環境研究センター研究委委員 (現在に至る)
1990年4月 網走市能取港活性化基本計画策定調査委員会委員 (1992年3月まで)
1991年1月 オホーツク・大学間交流協議会会長 (1992年3月まで)
1992年4月 オホーツク臨空産業ゾーン形成推進協議会委員 (1994年3月まで)
1996年4月 網走市 HOPE 計画策定委員会委員 (1997年3月まで)
1996年12月 網走市都市計画審議会会長 (2000年3月まで)
1997年4月 網走市総合計画審議会専門医委員 (1998年3月まで)
1997年4月 北海道教育庁高等教育機関ネットワーク機能活用委員会委員 (1998年3月まで)
1997年4月 サハリン石油ガス開発オホーツク研究会会長 (2000年3月まで)
1997年5月 オホーツク圏広域知識産業研究会会長 (2000年3月まで)
1997年11月 オホーツク地域自治研究所理事長 (2000年2月まで)
1998年4月 オホーツク地方自治土曜講座運営委員 (2000年3月まで)
1998年8月 網走市行政改革市民会議議長 (1998年10月まで)
1998年9月 網走市教育局オホーツク地域ネットワーク会議委員 (2000年3月まで)
2002年12月 豊島区まちづくりバンク検討委員会座長 (2003年12月まで)
2005年6月 豊島区まちづくりバンク運営協議会会長 (2008年3月まで)
2007年1月 熱海市行財政審議会委員 (現在に至る)
2008年4月 熱海市温泉事業のあり方についての検討委員会委員長
2008年6月 オホーツク地域自治研究所理事長 (現在に至る)

研究業績

単著

『国家独占資本主義の基礎構造』合同出版社，1982年4月

共著

『マルクス経済学の基礎知識』有斐閣，1976年11月

『地域社会自立への道』北の街社，1985年6月

『現代の労働と生活』学習の友社，1887年

『コープ・ワーカーズ考』労働旬報社，1991年12月

『21世紀とマルクス』桜井書店，2007年4月

論文

『現代恐慌と恐慌・循環論争』『経済評論』第25巻第4号，1976年4月

『レーニンの国家資本主義論』『立教経済学研究』第31巻第4号，1978年2月（のちに『国家独占資本主義の基礎構造』に所収）

『レーニンの国家的独占概念の検討』『立教経済学研究』第32巻第1号，1978年7月（のちに『国家独占資本主義の基礎構造』に所収）

『レーニンの国家独占資本主義概念について』『立教経済学研究』第32巻第4号，1979年3月（のちに『国家独占資本主義の基礎構造』に所収）

『戦後日本の産業循環に関する一考察——循環性恐慌（＝周期的恐慌の検出について）（一）（二）』『立教経済学研究』第34巻第2号，第3号，1980年9月，12月（のちに『国家独占資本主義の基礎構造』に所収）

『マルクスの貧困化論はいかに把握されるべきか（上）（中）（下）』『賃金と社会保障』第871号，第872号，第873号，1983年7月，8月，9月

『（個人的所有の再建）論争をどう見るか』『立教経済学研究』第39巻第3号，1986年1月

『マルクスの個人的所有概念の意味』『立教経済学研究』第39巻第4号，1986年3月

『資本の過剰生産と恐慌の現実性——'61年～63年草稿「資本と利潤」の章第7節を中心に——（上）（下）』『立教経済学研究』第40巻第2号，第3号，1986年9月，1987年1月

『現段階の景気循環の主要問題について』『経済』，1988年12月

『マルクス信用論における「金融の空洞化」（上）（中）（下）』『立教経済学研究』第42巻第2号，第3号，第4号，1988年10月，1989年1月，3月

『現段階の辺境，内国植民地についての考察（上）（中）（下）』『オホーツク産業経営論集』第1巻第1号，第2巻第1号，第3巻第1号，1990年3月，1991年3月，1992年3月

『今日の景気の展開方向』『経済』，1991年4月

- 「現代資本主義と1991～92年恐慌の歴史的位置」『経済』, 1992年6月
- 「網走市の産業構造とその発展方向」『オホーツク産業経営論集』第5巻第1号, 1994年1月
- 「協同組合社会主義論の歴史的形成についての考察(上)」『オホーツク産業経営論集』第6巻第1号, 1995年11月
- 「アソシエーション社会主義論の成立とその限界——ソ連型社会主義の崩壊と『共産党宣言』の未来社会論——」『立教経済学研究』第49巻第3号, 1996年1月
- 「日本における規制撤廃・緩和をどう考えたらよいか——規制撤廃・緩和の経済理論とその検証を中心に——」『企業環境研究年報』(中小企業家同友会全国協議会 企業環境研究センター)第1集, 1996年7月
- 「アソシエーションと個人的所有の再建論争——フランスの労働者社会主義における協同占有と個人的所有の把握をめぐる——」『オホーツク産業経営論集』第7巻第1号, 1997年3月
- 「労働者生産協同組合の基本原則と運営原則の問題によせて」『協同の発見』第65号, 1997年9月
- 「現代の社会 = 歴史理論における市民社会概念の考察——戦後日本の市民社会論によせて——」『オホーツク産業経営論集』第8巻第1号, 1997年12月
- 「土地国有化と農業生産協同組合——発達した資本主義の土地 = 農業政策の基本問題に寄せて——」『オホーツク産業経営論集』第8巻第2号, 1998年5月
- 「物質代謝論とエコ社会主義論——物質代謝論の社会経済システム論的射程(上)」『立教経済学研究』第54巻第3号, 2001年1月
- 「マルクスの物質代謝論: 三つの物質代謝を中心に——物質代謝論の社会経済システム論的射程(中)」『立教経済学研究』第54巻第4号, 2001年3月
- 「農業 = 「化学的物質代謝制御」論と「合理的農業」論——物質代謝論の社会経済システム論的射程(下)」『立教経済学研究』第55巻第1号, 2001年7月
- 「物質代謝論と都市・農村関係論(上)(中)(下)」『立教経済学研究』第55巻第2号, 第3号, 第4号, 2001年10月, 2002年1月, 3月
- 「資本主義的生産と物質代謝・物質循環」『経済』第69号, 2002年6月
- 「「世界恐慌」の可能性と現実性」『経済』第79号, 2003年4月
- 「日本経済の「長期停滞」, 「デフレ」と経済政策論争——(慢性的過剰生産)についての一考察(上)(下)」『経済』第94号, 第95号, 2003年7月, 8月
- 「コースの企業本質論とマルクスの企業本質論——「取引費用」説の一内在的・批判的検討(上)(下)」『立教経済学研究』第58巻第3号, 第4号, 2005年1月, 3月
- 「『資本論』の社会主義像——国家社会主義か, 市場社会主義か, 協同社会主義か(上)(中)(下)」『立教経済学研究』第59巻第2号, 第3号, 第4号, 2005年10月, 2006年1月, 3月

- 「ロバート・オウエンと『資本論』——『資本論』の社会主義像(完)」『立教経済学研究』第60巻第2号, 2006年10月
- 「資本主義から協同社会主義への移行過程——古典家たちはいかに捉えていたか(上)(中)(下)」『立教経済学研究』第60巻第4号, 第61巻第1号, 第2号, 2007年3月, 7月, 10月
- 「パリコミュン期の移行過程論——続・資本主義から協同社会主義への移行過程(上)」『立教経済学研究』第61巻第3号, 2008年1月
- 「晩年期のマルクスの移行過程論——続・資本主義から協同社会主義への移行過程(下)」『立教経済学研究』第61巻第4号, 2008年3月
- 「協議社会主義の原像」『もうひとつの世界へ』第14号, 2008年4月

その他

- 「現代日本のインフレーションのしくみとその被害」『賃金と社会保障』第668号, 1975年2月
- 「大量国債問題と再燃インフレーション」『賃金と社会保障』第689号, 1976年1月
- 「『地域本位』と市場原理論のパラドックス——今, 地域に求められるプログラムとは(第3次行革審「豊かなくらし」部会報告の検討)」『賃金と社会保障』第1064号, 1991年8月
- 「川鍋正敏先生の人と学問」『立教経済学研究』第49巻第3号, 1996年1月
- 「現代資本主義とデレギュレーション(シンポジウム)」『流通』(日本流通学会)第54巻第3号, 1997年9月
- 「水谷謙治先生の人と学問」『立教経済学研究』第54巻第3号, 2001年1月(前畑恵子氏との共同執筆)
- 「世界同時不況の現局面をとらえる視点(シンポジウム)」『経済』第77号, 2002年2月
- 「21世紀の行財政理論 社会・労働運動の再生・再建とオルタナティブな社会像——ひとつの問題提起」『行財政研究』第55号, 2004年3月
- 「現代資本主義にとって国家の役割はどうなったか——小松善雄さんに聞く」『経済』第104号, 2004年5月
- 「日本経済の『混迷』と構造改革——小泉構造改革は日本経済・産業にどのような影響を与えたのか(座談会)」『季刊自治と分権』第22号, 2006年冬号
- 「もう一つの社会に向けてのある探求者の軌跡」『立教経済学論叢』第71号, 2008年3月

書評

- 「本間要一郎『現代資本主義分析の基礎理論』」『土地制度史学』第28巻第3号, 1986年4月
- 「岩下有司著『景気循環の経済学』」『経済』第6号, 1996年3月
- 「G. W. F. ヘーゲル, 尼寺義弘訳『自然法および国家学に関する講義——1817/18冬学期講義, ハイデルベルク——1818/19冬学期序説(付録), ベルリン』」『阪南大学論集』第38巻第2号,

2003年3月

「川鍋正敏『資本と恐慌』」『経済』第120号，2005年9月

インタビュー

「セル生産方式（CPS）の生成・発展と若干の歴史的・理論的諸問題——ソニー・セル生産方式立ち上げの当事者・金辰吉氏（ソニー生産戦略部門生産革新部統括部長）に聞く」『オホーツク産業経営論集』第16巻第1号，2006年9月

翻訳

「E・ジョーンズ編集・新聞『ノーツ・トゥ・ザ・ピープル』掲載の協同組合・協同組合運動論——マルクスの協同組合・協同組合運動論に寄せて——（英文）」『オホーツク産業経営論集』第6巻第1号，1995年11月

「労働者生産協同組合の基本原則と運営原則の問題によせて——第一インターナショナル・ジュネーブ支部の労働者生産協同組合規約の紹介と考察（独文）」『協同の発見』（協同総合研究所）第65号，1997年9月（共著）

レポート

「日本経済の構造的変容と本物で高業績の企業づくり」『研究センターレポート』（中小企業家同友会全国協議会 企業環境研究センター）第14集，2003年2月

「日本の経営思想史における同友会の位置——義・利合一説＝道徳・経済合一説を中心に——」『研究センターレポート』（中小企業家同友会全国協議会 企業環境研究センター）第15集，2004年2月

「世界経済の失速リスク・製品の偽装問題と同友会型経営理論の底力」『研究センターレポート』（中小企業家同友会全国協議会 企業環境研究センター）第19集，2008年3月

報告書

【東京都地場産業経営実態調査】1980年～1987年，東京都（国民経済研究協会受託調査）「建築用金物製造業」，「鋳鉄鋳物製造業」，「染色業（八王子地域）」，「写真製版業」，「米菓子製造業」，「一般印刷業」，「製本業」，「スクリーン印刷業」，「建築板金業」

【東京都地場産業振興ビジョン】1983年～1987年，東京都（国民経済研究協会受託調査）「写真製版業」，「鋳鉄鋳物製造業」，「一般印刷業」，「スクリーン印刷業」，「円高の影響にともなう実態と今後の対応について（双眼鏡製造業）」

【東京都業種別経営実態調査報告書】1989年～1994年，東京都（国民経済研究協会受託調査）「印刷物光沢加工業」，「金属プレス加工業」，「軽印刷業」，「建具製造業」，「家具製造業」

- 「日本経済の構造調整が周辺地域に及ぼすインパクトに関する経済・社会的研究——北海道オホーツク経済圏を中心として——」1990年4月～1992年3月（共著）
- 「オホーツク新産業構想」1990年4月～1992年3月，網走市（生物資源研究所受託）（共著）
- 「網走市の女子労働市場動向と再就職希女性の生活意見」1992年3月，網走市（企画調整部委託調査）（共著）
- 「網走市民の活動・学習に関する調査——社会教育調査——」1998年3月，網走市教育委員会（生物資源研究所受託調査）（共著）
- 「網走市製造業の知識産業・知識経営化とその発展方向——網走市製造業の経営力向上に関する実態調査——」1998年11月，網走市商工会議所より委託
- 「網走市の国際化・対ロシア交流とその課題——対ロシア交流港湾都市の諸事例をふまえて——」1999年2月，オホーツク地域振興機構より委託（共著）
- 「誘致企業の居住意向調査——移り住みたくなる網走をめざして——」1999年3月，網走市（生物資源研究所受託調査）（共著）